

社会科シラバス 高校2年

1. 学習の到達目標と評価の観点

	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
(科目) 日本史特講	2 単位	第 2 学年	『日本史探究』実教出版（教科書） 『新詳日本史』浜松書店（図説） 『日本史探究 マイノート』実教出版（副教材）
学習の到達目標	・資料の読み取りを通して真理を追究していこうとする姿勢や、得られた知識・技能を実社会に役立てようとする意欲を養う。〔Science〕 ・世界全体を俯瞰するグローバルな視点と地域の問題を掘り下げて把握するローカルな視点を併せ持つ柔軟な思考力を養い、それに関する自分の考えや価値観を発信できるとともに、社会の中で自身に求められている役割を認識する。〔Global〕 ・探究心を持ち、物事を論理的にとらえ、現在世界各地で起きている問題を歴史的な視点から読み解き、よりよい解決策を導き出す。また、その解決策を実行するために、他者の意見を尊重しながら協働できる人間になる。〔Liberal Arts〕		
評価の観点	授業に前向きに取り組み、「なぜこのような出来事が起きたのか」といった疑問を持ち、知識を活用し、他者と協働しながら、その疑問を解決しようとする姿勢がある。＜主体性・多様性・協働性＞ 日本の歴史を学びながら、それぞれの出来事を比べたり、たがいのつながりや影響を探究し、自分の考えを発信することができる。項目をただ暗記するのではなく、「原因→経過→結果」という因果関係をつかむことで、社会を動かす躍動感を体感する力をつける。＜思考力・判断力・表現力＞ 諸課題の形成過程について考察したり、資料を読みとるために必要な知識・技能を身につけられている。＜知識・技能＞		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

A：「十分満足できる」状況と判断されるもの

B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの

C：「努力を要する」状況と判断されるもの

D：未提出，未実施

2、学習内容及び評価方法

時期	単元	学習のねらい・到達目標
1 学期 中間 まで	古代～中世にかけての社会的情勢と文化史の関連について	・飛鳥期から天平期における文化の特質について、当時の日本の政治史・外交史と絡めて説明できる。
1 学期 期末 まで	古代～中世にかけての社会的情勢と文化史の関連について	・弘仁貞観期から国風期における文化の特質について、当時の日本の政治史・外交史と絡めて説明できる。
2 学期 中間 まで	中世～近世にかけての社会的情勢と文化史の関連について	・鎌倉時代～室町時代～桃山時代の文化について、変容していく日本社会と絡めながら、その特色について説明できる。
2 学期 期末 まで	近世の社会的情勢と文化史の関連について	・江戸時代の文化について、儒学などの学問を重視したことから説明できる。 ・江戸時代の文化について、農業だけでなく諸産業の発展、交通網の整備などから、説明できる。 ・江戸時代の文化について、「4つの窓口」を通じた外交的な視点で説明することができる。
3 学期 期末 まで	大学入試問題の演習	・今までに獲得した知識を用いて、史料や図を読み取ることがより実践的な形式でできる。 ・自分の考えや意見を記述する形で表すことがより実践的な形式でできる。

評価の観点及び内容	評価方法（具体例）
教員の発問に対し、積極的に取り組んでいる。周りのクラスメイトと主体的に意見の交換をする様子がみられる。＜主体性・多様性・協働性＞	loilo 課題（提出）
設定された課題に対する自分の考えを、他者にも読み取れるように適切に説明することができる。＜思考力・判断力・表現力＞	loilo 課題（内容）
歴史的な知識を身につけられている＜知識・技能＞	授業内試験